木曽山崎団地地区
まちづくりニュース第１号

2025年2月　発行:町田市　都市づくり部都市政策課モノレールまちづくり推進室

春が近づいておりますが、まだ寒い日が続いております。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。この度、木曽山崎団地地区のまちづくりの検討状況をお伝えするために、まちづくりニュースを作成しましたので、配布します。ぜひ、ご覧ください。

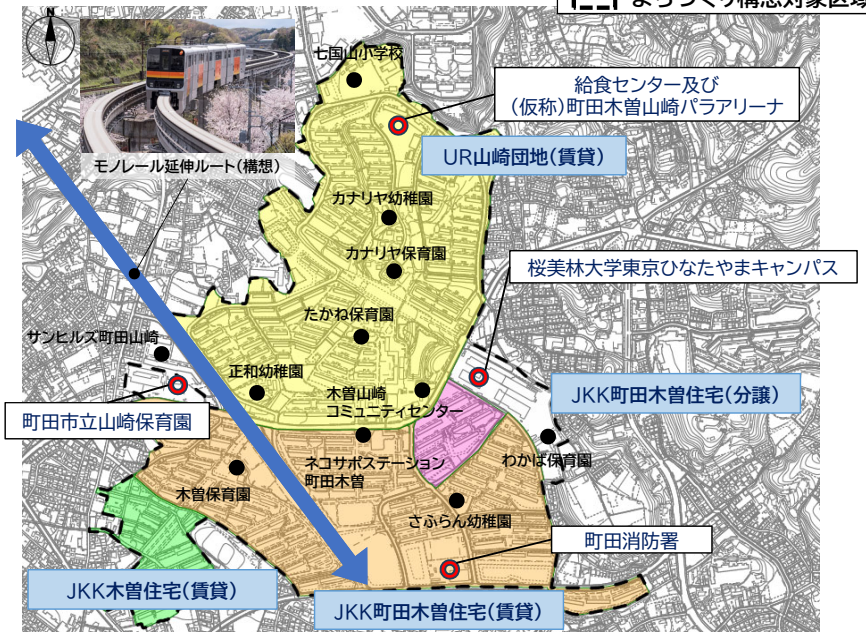
木曽山崎団地地区まちづくり構想の改定に向けて検討を進めています！

2021年に多摩都市モノレール町田方面延伸ルートが選定されました。それに伴い、モノレールの整備を見据えて、2013年7月に策定した「町田市木曽山崎団地地区まちづくり構想」の改定に向けた検討を進めています。

本検討の一環で、地域の皆さまから幅広いご意見を頂くために、「まちづくり検討会」、「まちづくりワークショップ」、「まちづくりアンケート」を実施しました。この度、検討会等の状況及びアンケート結果をまちづくりニュースでお伝えすることといたしました。今後も構想改定に向けた検討を進めて参りますので、ご理解、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

木曽山崎団地地区の検討対象区域

木曽山崎団地地区のまちづくりの範囲は下図の通りです。



【お問い合わせ】
194-8520　町田市森野2-2-22　町田市役所8階
町田市都市づくり部都市政策課モノレールまちづくり推進室
電話:042-724-4077　Fax:050-3161-5502

これまでの検討状況

資料7

まちづくり検討会について

学識経験者や町内会･自治会･管理組合の代表を委員として、まちづくりの方向性について検討しています。今年度は3回開催し、意見交換を行いました。

主な検討内容

第1回検討会 : (2024年7月)	• これまでのまちづくりの取組について • ワークショップ、まちづくりアンケートの実施について
第2回検討会 : (2024年11月)	• 地区の現状について • ワークショップ、まちづくりアンケートの結果報告について • まちづくりの課題整理、目標･方向性と取組例について
第3回検討会 : (2025年2月)	• まちづくりの課題整理、目標･方向性と取組例について • 木曽山崎団地地区の整備イメージについて • まちづくり構想改定案について

検討会の様子

まちづくり検討会　構成メンバー

まちづくり検討会会長

清水 哲夫氏(東京都立大学教授)

まちづくり検討会　委員

町田山崎団地自治会
町田木曽団地自治会
木曽団地自治会
町田木曽住宅ト号棟管理組合
上山崎町内会
本町田町内会
千代ヶ丘自治会
サンヒルズ町田山崎管理組合
町田山崎第二住宅管理組合法人

まちづくりワークショップについて

住民の皆さまからアイデアやご意見を頂くために、「まちづくりワークショップ」を実施しています。今年度は、2回開催しました。

主な内容

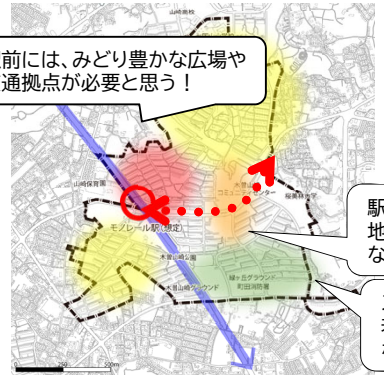
第1回ワークショップ : (2024年8月)	• 現状の良い点、課題点 • 将来のまちのあり方(住みたいまち、訪れたいまち、子どもにとって良いまち)
第2回ワークショップ : (2024年12月)	• 具体的な機能やまちのレイアウト • モノレール駅周辺のまちの機能やレイアウト • 地区全体のまちのレイアウト • 地区内の交通について

ワークショップで出た意見の一例

医療環境が充実していて安心して住めるまちが良いな！

ワークショップの様子

駅前には、みどり豊かな広場や交通拠点が必要と思う！



まちづくりアンケートの結果について

2024年8月にまちづくりアンケートを実施しました。その結果の一部をご紹介します。

調査方法：アンケート紙面の配布・回収、Webでの回答

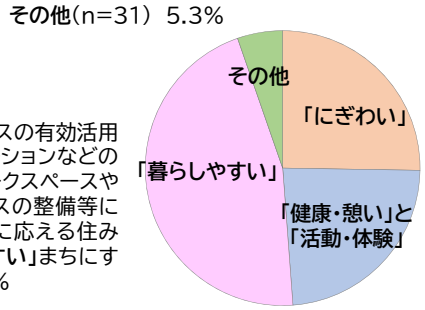
回答期間：2024年　8/29(木)～9/16(月)

回答状況：地区内回答数469件

周知方法：木曽山崎団地地区へ全戸配布 7,536 戸
地区内の幼稚園等での周知
広報まちだ、市ホームページへの掲載

Q. 木曽山崎団地地区の団地再生に向けては、次のどの取組みを優先すべきだと考えますか？

単位：件
(N=582)
※Nは設問毎の回答数

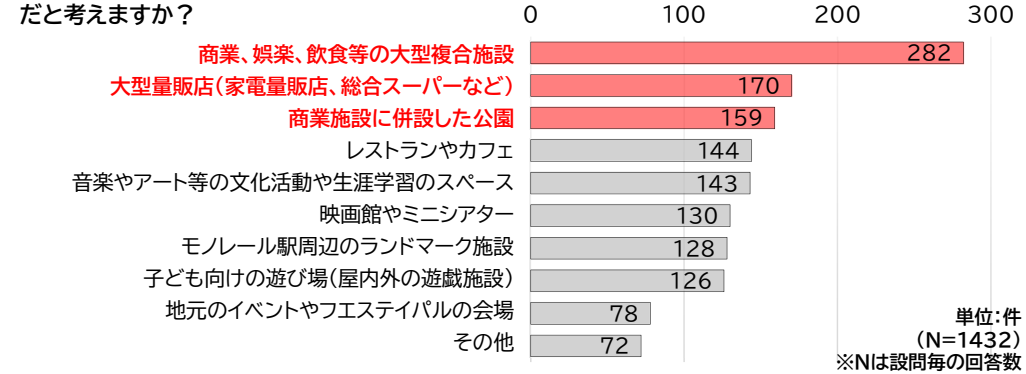


将来を見据えて都市再開発を行い、新たな商業施設や集客施設を誘致し、「にぎわい」のあるまちへと発展させる。(n=147)　25.3%

空き部屋や空きスペースの有効活用や、住宅改修やリノベーションなどの住環境の改善、テレワークスペースや地域活動・交流スペースの整備等による、多世代のニーズに応える住み心地の良い「暮らしやすい」まちにする(n=267)　45.9%

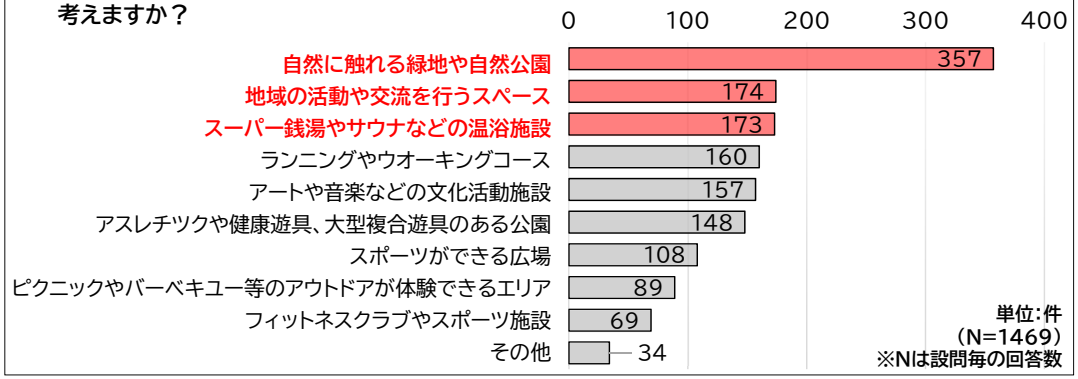
団地内の豊かな自然環境の保全・活用、運動やアート、音楽などの文化活動のスペースの整備を行い、「健康・憩い」と「活動・体験」を提供するまちにする。(n=137)　23.5%

Q. モノレール延伸を契機とした「にぎわい」のあるまちにするためには、どのような施設が必要だと考えますか？



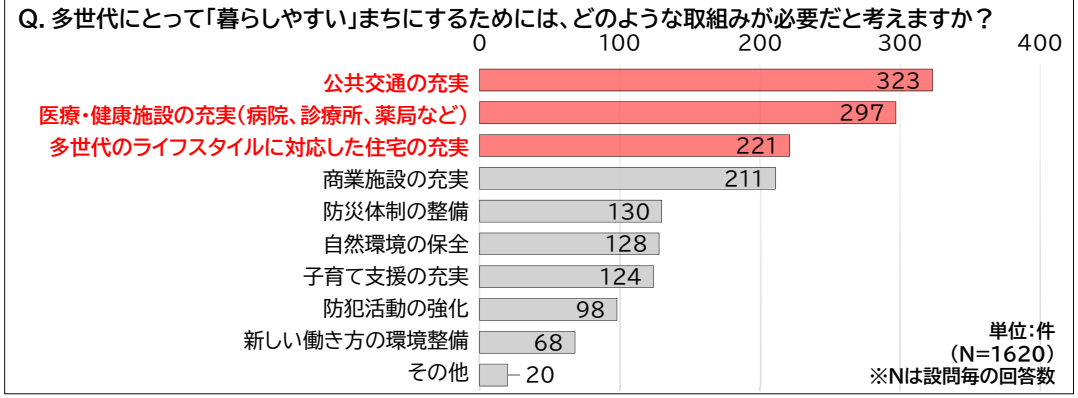
単位：件
(N=1432)
※Nは設問毎の回答数

Q. 多様な「活動・体験」と「健康・憩い」のあるまちにするには、どのような施設が必要だと考えますか？



単位：件
(N=1469)
※Nは設問毎の回答数

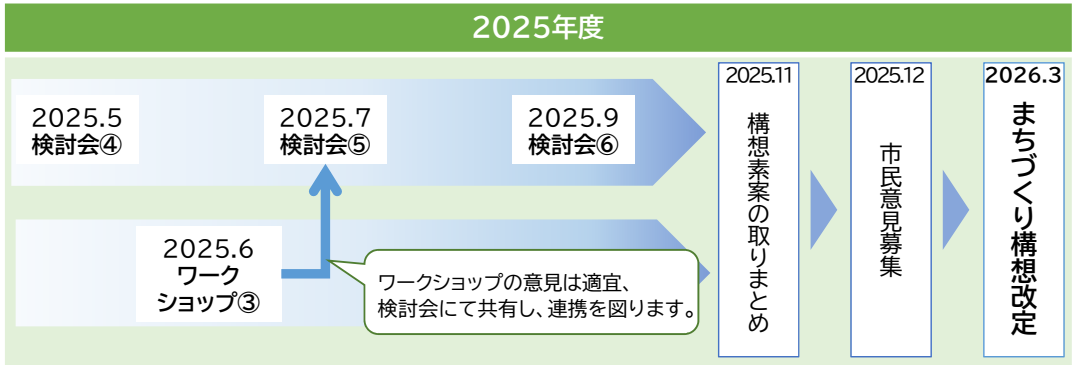
Q. 多世代にとって「暮らしやすい」まちにするためには、どのような取組みが必要だと考えますか？



単位：件
(N=1620)
※Nは設問毎の回答数

その他、これからのまちづくりについて、様々なご意見がありました。主なものは以下の通りです。

安心・安全面の充実 (35件)	• 道路・公園等の公共空間のバリアフリー化の推進(4件) • 防災対策(6件) • 防犯対策(8件) • 子育て支援策の充実(3件) • 健康維持策の充実(10件) • 歩行者の安全性の向上(4件)
多世代交流の充実 (72件)	• 多世代の交流の推進(13件) • 住民同士のコミュニケーションの活性化(6件) • コミュニケーションが自然と促されるような仕掛けのある休息スペース等の充実(7件) • **多様な活動に対応できる施設の拡充(44件)** • ボランティアやNPO等の活動を支援する体制(2件)
利便性の向上 (46件)	• 高齢者等の買い物難民に対する支援など生活支援の充実(9件) • 団地内や近隣を回遊するコミュニティバスなど地域の交通対策(6件) • **駅や拠点間をつなぐ公共交通の充実(31件)**
まちの魅力の向上 (98件)	• **多様なニーズに対応した施設の整備など居住環境の改善(48件)** • **魅力的な店舗や利便施設の導入(50件)**
環境への配慮 (13件)	• 緑豊かな環境を活かしたまちづくりの推進(12件) • 環境負荷の低減・自然エネルギーの積極的導入(1件)

今後の予定について

2026年3月のまちづくり構想の改定に向けて、以下のスケジュールを予定しています。